

## コアシンポジウム 1

### 「消化管腫瘍学の最前線—臨床と基礎のブリッジング」

主司会 菅井 有（岩手医科大学医学部病理診断学講座）

副司会 上野秀樹（防衛医科大学校外科学講座）

消化管癌においては浸潤部の病態の解明が急速に進展してきている。癌は粘膜内で発生し、粘膜下層以深に浸潤することは共通しているが、最終的な癌の悪性度は浸潤部の癌組織（細胞）の性質に依存していることが指摘されてきている。実際に浸潤部における tumor budding が実務においても用いられている。最近の研究結果では癌の分子異常は癌の浸潤段階によって異なっているという指摘もされており（癌の層構造的異常）、特に最浸潤部の分子異常についての多くの報告が蓄積されてきている。

消化管の層構造は食道から直腸まで多くの部分で共通しており、癌の層構造的異常も各消化管で見られる可能性があると思われる。一方臓器特異性の可能性もあり、各臓器に発生する腫瘍間で浸潤部の異常も異なっている可能性もある。本シンポジウムでは消化管癌の浸潤部の病態をキーワードにして、新たな視点から癌の臨床病理及び分子異常を明らかにすることを試みたい。本シンポジウムで新たな消化管癌の浸潤における新知見が明らかにされることを期待したい。多くの御発表をお願いする。